

令和5年度 江戸川区立船堀第二小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	○すすんで学習する子ども	目指す児童像 目指す児童像 目指す教師像	○目標に向かい、子ども職員も主体的に取り組み、子どもが育つ学校 ○確かな学力が身に付いた児童 豊かな心が育った児童 健康でたくましい児童 ○「子どもの健全な成長」を念頭に置き、自らの職責を果たす教師
	○思いやりのある子ども ○じょうぶな子ども		
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ・教職員の指導力(学習指導・生活指導)の向上 <課題> ・新しい教育課題への積極的な取り組み		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価 コメント	年度末に向けた改善策	
				取組	成果			
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	①教育課題「学力向上」実践推進校としての取り組み、及び校内研究を核に、全教員が授業改善を推進する。 ②週末の学年会の充実。学年として育てたい児童の力を明確にするため共通理解をはかる。 ③年間3回「江戸川っ子study week」の実施。 ④一人一台端末を活用した授業・家庭学習の実施	①保護者アンケート「授業規律が保たれた充実した授業が行われている」が90%以上となる。 ②児童アンケート「授業・行事で自分の力を生かすことができた」が80%以上となる。 ③年間に位置づけ、確実に実施する。 ④家庭学習で「eライブラリアドバンス」に取り組んだ児童80%以上となる。	A	A	①保護者アンケートの結果、授業がわかりやすいと感じ、家庭でもすすんで学習に取り組んでいる」との回答は84%であった。 ②児童アンケートの結果、「授業・行事の中で自分の力を生かすことができた」の回答は低学年で89%、高学年で95%だった。 ③年間3回の「江戸川っ子study week」は、全学年において実施した。 ④家庭学習で「eライブラリアドバンス」に取り組んだ児童は、学校全体で87%だった。	・一人一台端末の活用で、特に宿題などは、タブレットに重きを置いて良いのではないかと思う。親が〇付けなくても良いのは、メリットと考えられる。 ・インターネットだけでなく、本で調べることを大切にしていることは大変重要だと思う。	・一人一台端末については、朝学習の時間など、児童が自分のペースで学習できるように活用していく。 ・本の書籍を参考にしたり、インターネットのどのサイトを利用したのかなど、自分が根拠とした資料の所在を明確にするようにする。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	①読書科(教育課程特例校)の実施。 ②江戸川区調べる学習コンクールへの取り組み。 ③公共図書館、司書教諭と連携して本で学ぶ子を育てる。 ④読書科における、探究的な学習の実施	①読書科の年間計画に基づいた指導の実施。 ②教員アンケートで「本で調べる子の育成を図った」が100%となる。 ③児童アンケートで「本で調べるのが楽しい、いろいろなことが分かった」が90%以上となる。 ④読書科における探究的な学習を全学年で年1回以上実施	①全学年において、読書科の学習を実施した。 ②教員アンケートの結果、「本で調べる子の育成をめざして指導した」。 ③児童アンケートの結果、「本で調べるのが楽しいと感じた児童は学校全体で82%だった。 ④読書科における探究的な学習は、全学年で取り組み、調べる学習コンクールへ参加した。	A	A	・インターネットだけでなく、図書活用の良さも教えるなど、バランスよく活用できるようになることがのぞましい。	・学校図書館などで、本の分類法について児童に理解させ、どの棚を探せばよいかわかるようにする。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上>	①週1回、朝の活動に運動遊びを実施。 ②運動月間(短縄、長縄、持久走)の実施。 ③休み時間の外遊びの奨励。	①計画的に全学年で実施100%。 ②児童アンケートで「体育の学習でできるようになったことがある」が80%以上となる。 ③児童アンケートで「外遊びを進んでした、進んで体を動かした」が80%以上となる。	A	A	①週1回の朝の活動で運動遊びを実施した。 ②児童アンケートで「体育の学習でできるようになったことがある」との回答は、学校全体で89%だった。 ③児童アンケートで「外遊びを進んでした、進んで体を動かした」の回答は91%だった。	・コロナ禍の影響で、外遊びの機会も減っているの で、週1回の朝の運動遊びは続けてほしい。できるだけ外遊びの時間をとった方がよい。	・多くの教員が子どもと一緒に外で運動に親しんでいる。中休みは原則外遊びとなっているが、今後も継続していく。
	<食育に関わる指導の充実>	①月1回の食育指導の実施。	①児童アンケート「早寝・早起き・朝ごはんに気を付けて生活した」が85%以上となる。	A	A	①児童アンケート「早寝・早起き・朝ごはんに気を付けて生活した」の回答は、学校全体で88%だった。	・朝ごはんを食べる生活習慣を確立する援助として、子ども、保護者に情報発信することが大切。	・ホームページに給食だよりを掲載している。継続して給食メニューを掲載していく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンگرッジュメントの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	①一人ひとりの「ちがいを尊重し、配慮を要する児童への支援を行うとともに理解教育を実施する。 ②「学校2020レガシー」として「ボランディアマインド」(豊かな国際感覚)に重点を置いて取り組む。 ③エンガレッジルームを活用した個別対応。	①道徳・学級活動及び特別支援教室「やまぎ」の教員を核に、ミニ研修を年間3回程度実施。 ②総合的な学習の時間、道徳、外国語活動、委員会等を実施。 ③教職員で毎日の担当を決め、全職員で運営に当たる。	B	B	①年度初めと長期休業中に、ミニ研修を行った。 ②4年生で重い身体験、6年生で学校清掃など、ボランディア精神、国際感覚の醸成だけでなく、様々な立場の人達のことについても考える時間を設定した。 ③エンガレッジルームの使用が必要な際には、担当の教員が対応することができた。	・子ども一人一人に応じた適切な学びの場を考えたときに、やまぎ学級が校内にあることは大変重要。子どもたちのことについて一緒に考える機会をもつことが重要。 ・副籍交流の実施について、PRすることは難しいかもしれないが、インクルーシブ教育の推進のためにも情報発信してほしいところ。	・個に応じた指導をめざし、学校全体で情報を共有していく。次年度に向け、担任間で引継ぎを徹底するようにする。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	①「江戸川区子どもの権利条例」の理解に努め、自分も他者も大事にする子どもの育成。 ②生活指導全体会・生活指導学会で情報共有。 ③hyper-QU、子どもアンケートの実施。	①全校児童に「江戸川区子どもの権利条例」を知らせ、学年に応じた指導を行う。 ②毎週月曜日に生活指導学会を設定し、情報を共有する。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を図る。 ③年1回hyper-QU実施、年2回子どもアンケート実施	B	B	①一度示したが、十分な理解といえる段階には達していない。校内に掲示するなど、子ども目にもふれることができるようにする。 ②毎週月曜日の報告で、学校全体で情報共有することができた。 ③hyper-QU、子どもアンケートは実施できた。活用の仕方について工夫が必要。	・携帯電話講座を業者を活用して実施しているのは良いこと。 ・タブレットはYouTubeを見て子どもが遊んでしまふなら、規制した方がよい。 ・不登校のタブレットによるオンライン学習は、保護者が協力してもらえらるならば可能だと思うが、小学生には難しいと感じる。大人と同じようにはできないかと思う。	・インターネットの利用については、各家庭でもルールやきまりについて改めて確認するよう呼びかける。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	①家庭、地域に向け、教育活動の様子を発信する。 ②学校公開の周知を徹底し、教育活動を各家庭・地域に伝える機会とする。	①HPの学年の様子、学年便りは月1回以上発信する。 ②年4回の学校公開を実施し、全家庭の参観をめざす。	B	B	①学年だよりが月1回以上発信した。 ②年4回の学校公開を実施し、多くの家庭に参観していただいた。	・更新されるのはすばらしいが、教員は授業の方が大切だと思う。大きな行事、学期一度程度で十分でないかとも思います。	・学年だよりは毎月掲載していく。 ・各行事については、各学年でできる限りホームページで情報発信していくようにする。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	①学校公開に合わせて、学校関係者評価委員会を年3回程度実施。 ②学校関係者評価結果のホームページ掲載。	①学校アンケート保護者回答率90%以上となる。 ②初年度報告(1学期末まで)、中間報告(2学期末まで)、最終報告(年度末まで)をホームページに掲載する。	B	B	①学校アンケートの保護者回答率は、79%だった。 ②ホームページに掲載している。	・毎年ホームページに掲載されている。継続していたら良かったと思う。	・ホームページに掲載するようにする。
	<関係諸機関との連携>	①SSW、児童相談所との連携の強化。	①月に1回以上、SSW、児童相談所との情報交換を行う。	①月に1回以上、それぞれの機関と情報交換を行い、個別に対応することができた。	A	A	①月に1回以上は、それぞれの機関と情報交換を行い、個別に対応することができた。	・児童相談所も忙しいと思うが、学校でも対応できないことがあると思う。子どもを守るためにも積極的に動いていただければ、と思う。
特色ある教育の展開	<学校における働き方改革プラン>	①月1回、定時退勤日「リフレッシュデー」を設定。 ②月の超過勤務時間が45時間以上の教員が1割(4名)以内になるよう、お互いに声を掛け合う。	①定時退勤職員100%を目指す。 ②出勤記録を参考に、毎月個別に声掛けをする。	B	B	①「リフレッシュデー」でも、定時退勤職員100%は達成できていない。年度始めに周知し、徹底を呼びかける。 ②45時間以上は、平均10人以上。	・月45時間を達成するためには、夕方6時に帰らないと無理。それ以上にならないような工夫が必要。	・毎日だけでなく、「リフレッシュデー」には定時退勤を心がけるよう呼びかけていく。